

研究紀要

確かな学力を育てる

—ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの研究—



教育長あいさつ

新座市教育委員会教育長 金子 廣志



本日ここに、令和2・3・4年度新座市教育委員会委嘱による新座市立栄小学校の研究発表会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

さて、「令和の日本型教育」では、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が示されました。同時に学校のICT化が推し進められ、情報化・グローバル化による変化の激しい社会に対応できる子供たちの育成が求められています。

このような中、栄小学校におかれましては、「確かな学力を育てる—ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの研究—」を研究主題とし、全教科にわたって研究に取り組んでまいりました。自己有用感・自己肯定感を高め、確かな学力を育てることにより、自分で考え、共によりよく生きようとする子の育成を目指し、研究されてきました。本研究はまさに、新しい時代の学校教育が目指すところであると確信しています。

最後になりますが、本校の研究のためにこれまで御指導いただきました十文字学園女子大学副学長 社会情報デザイン学部 社会情報デザイン学科教授 安達 一寿 様をはじめとする諸先生方に心より感謝申し上げますとともに、栄小学校 浅田 敦子 校長を中心に御努力いただいた教職員、並びに研究推進に御尽力賜りました皆様に感謝申し上げ、あいさついたします。

校長あいさつ

新座市立栄小学校 浅田 敦子



栄小学校ではGIGAスクール構想による1人1台の端末の活用を、確かな学力を育てることにつながるため、令和2年度から3年間、新座市教育委員会からの委嘱を受け「確かな学力を育てる—ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの研究—」を研究主題とし、全教科等で授業改善に取り組んでまいりました。

研究3年目の今年度は、「個別最適な学び」「協働的な学び」「デジタル・シティズンシップ教育」の3つの部会により研究を深めています。学ぶ場や個に応じたICTの活用、またデジタル社会の善き担い手となるためのデジタル・シティズンシップ教育にも目を向け、学びの多様性をさらに追究してまいりました。

研究を進める中で、「時間」や「空間」の制約を超えた学習活動を実現するICT活用の大きな可能性を見だしております。一方で子供たちに身に付けさせたい資質・能力を明確にすること、また板書や宿題、学習規律など、これまで学校で当たり前だったものをあらためて考える必要性も感じております。本研究はまだ緒についたばかりで、未熟な面も多く、本日御参会いただきました皆様から忌憚のない御意見を賜れば幸いです。

最後になりましたが、これまで丁寧に御指導いただきました十文字学園女子大学副学長社会情報デザイン学部社会情報デザイン学科教授 安達 一寿 様をはじめご指導いただきました諸先生方、そしてこのような研究の機会をいただきました新座市教育委員会に厚く御礼申し上げます。



令和5年1月23日(月)
新座市立栄小学校

研究主題「確かな学力を育てる」

— ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの研究 —

確かな学力

- 基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力
- 自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する力

目指す児童像

主体的に問題に取り組める子

対話を通して問題を解決できる子

深い学びを実感できる子

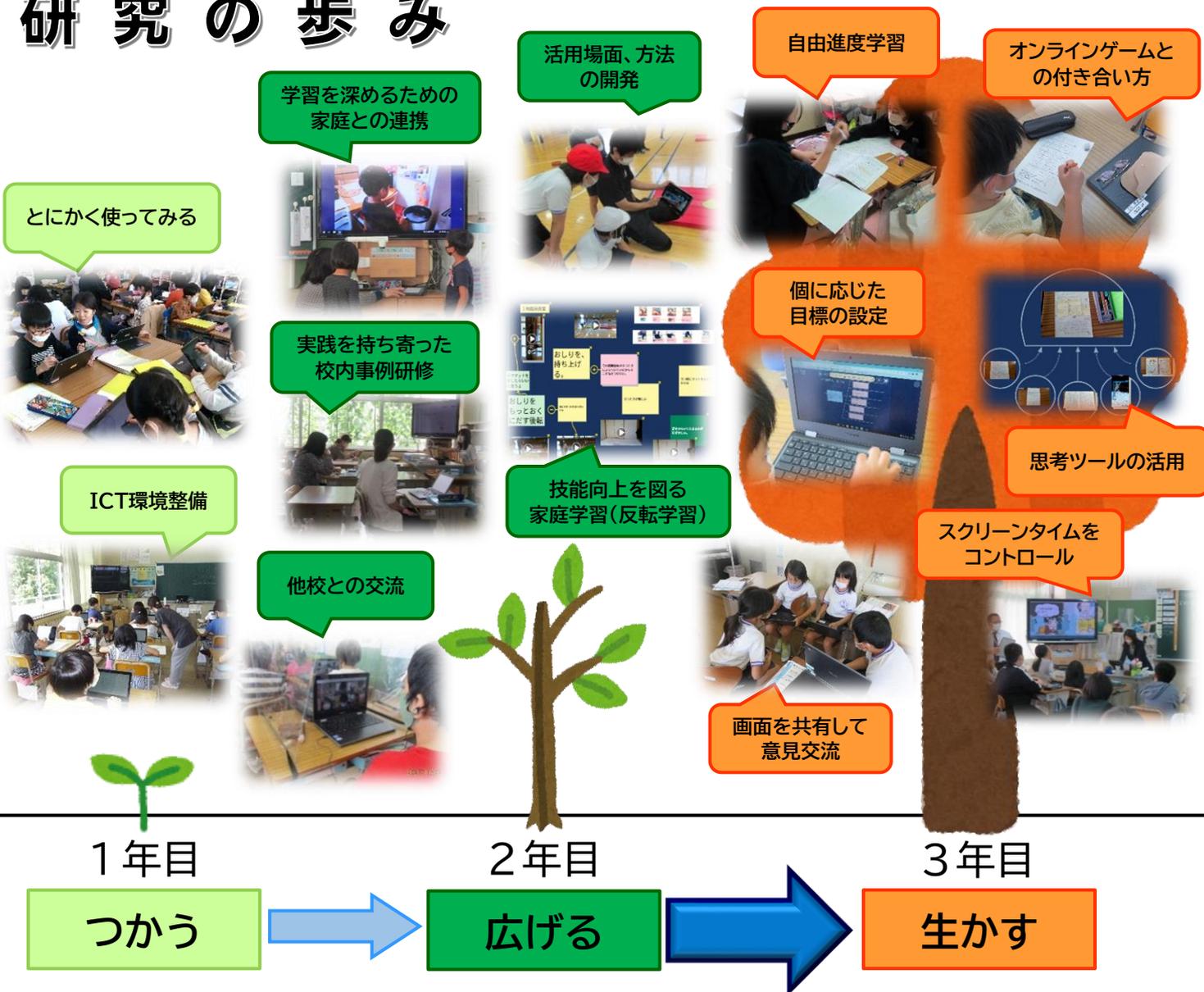
具体的な姿

- 自分から課題を見つける
- 学習のゴールが分かる
- 自分のこととして考える
- 最後まであきらめずに取り組む
- 学びを自覚し、次時への意欲をもつ

- 自分の考えとの共通点・相違点を見つける
- 情報の取捨選択をする
- 自分の考えを整理し、表現する
- 自分の考えを様々な手段で伝える
- 考えを深めるために自分なりの手掛かりを見つける
- 集団で考えを深める
- 集団で課題解決をする

- 自分の考えを深め、新たな問いをもつ
- その時間に学んだことを理解する
- 学んだことを日常生活の中で活用する
- 自分なりの考えをもって学習に取り組む
- 答えや解決法を考える
- 学んだことを様々な方法で表現する
- 学んだことを発展させて、探究する

研究の歩み



各 部 会 の 研 究 概 要

個別最適な 学び研究部



目標

高学年…自ら課題を考え、多様な手段から自分に最適な方法を選んで取り組み、振り返って次につなげる児童を育てる。
低学年…多様な手段を知り、意欲をもって粘り強く取り組み、振り返りができる児童を育てる。

取組

- 5・6年生の算数科における自由進度学習の実施
- ICTを活用した指導の個別化
 - ・学習形態の工夫
 - ・AI教材を活用した個に応じた学習支援 等
- ICTを活用した学習の個性化
 - ・自分の伸びが分かる自己評価表
 - ・興味関心による学習選択 等

成果

○児童全員が主体的に取り組む授業が実現できた。
○児童が意欲をもち、集中して学習できるようになった。
【児童の実態調査から】
自由進度学習に取り組んでいるクラスの児童による記述
・自分に合った学習方法を見つけることができた。
・苦手なところを自分のペースで進められて良かった。
・友達と交流しながら教え合うことで、新しい考えに気付くことができた。

協働的な 学び研究部



目標

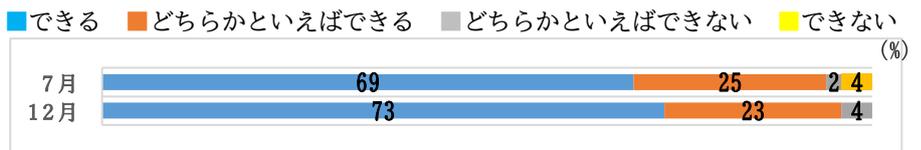
相手の考えを尊重し、互いに受け入れたり、比べたりしながら、主体的に課題解決に取り組める児童を育てる。

取組

- グループごとに一つの課題に取り組んで仕上げていく学習
 - ・めあてを達成するための作戦を立てる（体育）
 - ・より効率的な求め方を見つける（算数）
- ロイロノート・Jamboardを活用した意見の整理・交流
 - ・同心円状チャートの活用（道徳）
 - ・提出箱の回答共有機能の活用

成果

○自分だけでは分からないことに気付くことができた。
○自分とは違った考えを見つけることができた。
○他者の考えを認め合い、尊重できる集団になった。
【児童の実態調査（令和4年度）から】
友達の考えを聞いて、自分の意見と同じところや違うところを見つけることができたか。



デジタル・シティズン シップ教育部



目標

責任をもって情報技術を用い、人権と尊厳を尊重した社会参加を実践する能力を育てる。

取組

- 学級活動（5・6年）による授業の実施
 - ・オンラインゲームに潜む危険性
 - ・スクリーンタイム
 - ・メディアバランス
- 栄小GIGA宣言と継続的な見守りや必要に応じた指導
- 学級活動や道徳の年間計画への位置付け
- 次年度全体計画の作成

成果

○児童が主体的にICTの活用方法を考えることができた。
○実践を積み上げることで、学校全体で理解を深められた。
○家庭でルール等を話し合う機会を設けることができた。
○正しく使えないものを禁止するのではなく、より良い使い方を考えていくのが重要であることに教員が気付くことができた。
【授業後の児童感想から】
・家族で過ごす時間を大切に、スクリーンタイムが少なくなるようにする。
・SNSを利用する際にはトラブルに巻き込まれないよう、また自分が他の人を傷つけないように気を付けたい。

❖ 本研究の成果と課題 ❖

【成果】

- ICTを取り入れることで、従来型の一斉学習から、主体的な学びを促す学習に転換するきっかけとなった。
- ICTの活用によって、一人一人の意見を引き出しやすくなった。
- Chromebookの各機能をポータル的に使うことで、振り返りの質が向上し、児童が主体的に学ぶ姿が見られるようになった。
- ICTの正しい使い方を児童が主体的に考えることができた。
- 自由進度学習や学校を越えた交流学习など、新しい学びの道筋が立った。

【課題】

- 主体的に取り組んだ効果を見童に実感させ、学習への自信をもたせるようにする必要がある。
- 共有したり発表したりした意見をどのように活用していけば良いのか、さらに考えていく必要がある。
- 学習の中で様々な人と関わる経験を増やし、社会全体をより良くしようという意識をもたせていく必要がある。
- ICTの操作に慣れた教員だけでなく、全員が授業の中で常に活用できるようにする必要がある。
- デジタル・シティズンシップ教育を教科横断的に取り組み、さらに活性化していく必要がある。

❖ 御指導いただいた先生方 ❖ (敬称略)

十文字学園女子大学副学長 社会情報デザイン学部 社会情報デザイン学科教授
新座市教育委員会 学校教育部長
新座市教育委員会 学校教育部副部長兼教育支援課長
新座市教育委員会 学校教育部教育支援課副課長
新座市教育委員会 学校教育部教育支援課指導主事
新座市教育委員会 学校教育部教育相談センター副室長

安達 一寿
小関 直
丹代 円
長谷川 久和
石井 弥和子
大久保 洸

❖ 研究に携わった教職員 ❖

【令和4年度】 ◎研究推進委員長 ○研究推進委員

校長 浅田 敦子 教頭 関谷 誠 教務主任 ○野末 淳

原田 由枝 ○花岡 あゆみ 稲葉 祐紀子 ○海東 孝 ◎中本 壮亮 福島 瑚 ○來嶋 真孝

門脇 ちひろ 須田 桃 ○岸本 拓也 齋藤 紗也加 ○黒瀧 勇介 ○小山 文好 清野 里奈

大塚 有稀 ○杉山 晴生 弘中 幸伸 印南 友加里 杉原 雅子 堀田 由紀子

林 修一郎 加藤 由香里 堀 絵美子 平井 資子 鈴木 裕子 酒井 順子

佐藤 利恵 小野 サンドラ 寺島 加代子 高田 夏恵 吉永 莉那

【令和3年度】

教頭 八代 剛 村田 聡子 山村 鮎子 戎子 正晃 齋藤 敦子 横塚 幸葉

朝木 裕美 渡邊 未来 茂木 サラ 茂木 さち

【令和2年度】

校長 影山 葉子 川瀬 亜美 中根 悠太 田辺 みどり 上田 路子

❖ おわりに ❖

本校は、令和2・3・4年の3年間、新座市教育委員会の委嘱を受け「確かな学力を育てる－ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの研究－」を主題として研究を進めてまいりました。

目の前にある端末をどう使えばいいのかわからない中で、全教職員で意見を出し合いながら、まず「使ってみる」ことからこの研究はスタートしました。「トライ」&「エラー」の連続からICTの良さを実感し、授業での活用を広げていく中で少しずつ児童の学習に欠かせない「文房具」になってきました。「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現には、ICTが不可欠です。そして、この先も正しい使い手になるために「デジタル・シティズンシップ」を学び続けていくことが重要です。それを実感できたことが研究の大きな成果の一つです。今後も、児童一人一人の確かな学力を身に付けさせるために全教員一丸となり、研究の一層の充実を図ってまいります。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださいました新座市教育委員会、並びに熱心に御指導いただきました指導者の皆様方に心より感謝申し上げます。

教頭 関谷 誠